

2022年度 後期

関東学院大学 寄附講座報告書

～ グリーン購入がひらく環境未来都市 ～



ごあいさつ

中小企業においても、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みは必須であり、近年は、積極的に取り組む企業が増えてきました。会員のみならずSDGsの一環としてグリーン購入をはじめとした環境への取り組みを進めておられると思います。

SDGsは、企業にとっては、CSR（企業の社内的責任）課題の中から、社会セクター側の代表格でもある国連が重要と判断した取組みを指定したものであり、企業からみれば、社会性戦略上の重要課題です。したがって、取り組みを進めたら、事業評価を行い、マネジメントレビューに乗せる必要があります。ただ、SDGsのように社会性の高いCSRの場合、社会的意義と経営的意味の両方を評価せねばなりません。

このような評価は大変ですが、近年の大学教育においては、CSRや環境問題、まちづくりなどに力を入れている大学が多く、そのような教育を受けている学生の感想や意見は、企業にとって得るものが大きいと思います。

寄附講座は大学の正規授業の一環で行われ、学生には単位も出ますが、内容や運営については、担当する各企業が自由に設計できます。具体的には、授業の中で自社の取組みや課題に関するテーマを設定し、学生にグループディスカッションをさせて意見や提案を吸い上げるということも可能です。また、授業後に、自社で作ったアンケートを実施したり、指定したテーマでレポートを提出させたりすることも可能です。アンケート用紙やレポート用紙のご用意がなくとも、授業で使うレスポンスシートやレポート用紙をそのまま使って頂くことができます。

また、寄附講座は、「環境」をテーマに専門的に学んでいる学生が多く履修していることから、講義への関心が高い学生が履修しています。関心をもって学ぶ学生に接すると、講座を担当された社員の方にも刺激になるのではないかと思います。会社の業務や活動を担うことでやりがいを得ると、会社への求心力や業務パフォーマンスも高まります。寄附講座を通して良い社員を育てることもできるのです。

さらに、「環境」への関心が高い学生に自社をアピールする面もあると思います。感想カードを見ると、講義を聴いた学生に伝わるものが大きいことがわかります。当寄附講座は、学生が実践的学びを得る場として教育上きわめて大きな意義があるとともに、企業にとっても様々なメリットがある講座です。ぜひ貴社もご参加いただけましたら幸いです。



横浜グリーン購入ネットワーク会長
横浜市立大学国際教養学部 教授
関東学院大学理工学部 講師

影山 摩子弥

2022年度 関東学院大学寄附講座内容一覧

講義順	日程 全て木曜日	事業者名	タイトル
1	10月7日	グリーン購入ネットワーク	グリーン購入のススメ モノの選び方で世界が変わる
2	10月14日	カーボンフリーコンサルティング株式会社	事例から学ぶカーボン・オフセット基礎講座
3	10月21日	株式会社 オカムラ	オカムラの木材利活用による“サステナビリティの推進”
4	11月4日	太陽油脂 株式会社	エシカル消費でSDGsに取り組もう
5	11月11日	株式会社 トライフ	オーラルピースプロジェクト ～ビジネスと福祉の両立を目指す事例～
6	11月18日	株式会社 大川印刷	環境問題から考える自分と会社の存在意義
7	11月25日	横浜市	市民の生活を支える下水道が担う持続可能な社会への貢献
8	12月2日	株式会社 湘南貿易	横浜・神奈川から考えるエコやサステナビリティに関して
9	12月9日	株式会社 ダイイチ	ユニフォームで実現可能なSDGsの取り組み
10	12月16日	東洋電機製造 株式会社	「東洋電機製造のサステナビリティ活動のご紹介」 「鉄道の歴史、鉄道のエコ」
11	12月23日	かんきょうデザインプロジェクト	“ごみ”は人間の無関心がカタチになったもの
12	1月6日	生活協同組合ユーコープ	地球温暖化に伴う気候変動危機下の子どもたちへの支援について

【対象学生】

2年生から4年生まで45名

【授業の時間帯】

2022年10月7日（木）から毎週木曜日 13:15～14:55 全12回



グリーン購入のススメ モノの選び方で世界が変わる

2022年
10月7日



グリーン購入ネットワーク 事務局長：深津 学治

講義
内容

グリーン購入の意義や必要性、効果等の基本的な情報の解説に加え、地球温暖化の加速など、地球を取り巻く環境問題とグリーン購入とのつながり、身近な毎日の生活と環境配慮型製品、SDGsとグリーン購入の関連性等をテーマに講義を行いました。また、グリーン購入をさらに身近に感じていただくために、①自分の出身自治体、②横浜市立大学、③自分のアルバイト先、④就職活動で気になっている企業・団体のうち、2団体のグリーン購入の取り組みを調べ、発表していただきました。

私たちに何ができるのか？

私たちは、①使い方の工夫や②捨て方の工夫により、ものを大切に使い、エネルギー消費量やごみの量を減らすことができます。そして、③選び方（買ひ方）を工夫することによって、さらに環境への負荷を減らすことができます。

①使い方を工夫する
・節電・節水
・長く（上手に）使う

②捨て方を工夫する
・リユース
・ごみの分別・リサイクル

③選び方（買ひ方）を工夫する

資源採取 → 製造 → 流通 → 販売・購入 → 使用 → 廃棄

リユース
リサイクル

選び方を変えることによる効果（製造時の省エネ）

ミネラルウォーターは採水地からの輸送やボトルの製造・充填・冷蔵等により、私たちが口にするまでの間に、多くのエネルギーを消費しています。

「水」は私たちが消費する際にエネルギーを消費しないため、地球温暖化とのつながりは見えにくいですが、「水」の選び方（買ひ方）を変えることで、大きな効果が得られます。

水道水 500ml 0.169g-CO2

ミネラルウォーター（国産） 500ml 183g-CO2

ミネラルウォーター（外国産） 500ml 239g-CO2

CO2 1000倍！

「購買力」を使えば、いろんなことができる

VOC（揮発性有機化合物）を削減した印刷

フェアトレード商品

再生可能エネルギーの導入

環境金融、ESG投資

省エネ機器（LED、自動中入、輸配送）

海のエコラベル（MSC）認証製品

開伐材や森林認証材、廃木材等でつくられた製品

見えるほし認定企業（女性活躍企業）への発注

サーキュラーエコノミー

公共工事（街づくり）への環境配慮資材の利用

グリーン購入の取り組みを調べる

以下のうち、2団体のグリーン購入の取り組みを調べる

- ① 自分の出身自治体（市町村）
- ② 関東学院大学
- ③ 自分のアルバイト先
- ④ 就職活動で気になっている企業・団体

調べる内容

- ・ 方針の有無
- ・ 対象分野
- ・ 実績

調べる方法

各団体のホームページで検索

検索キーワード

グリーン購入、グリーン調達、CSR調達、温暖化対策実行計画

受講生
の感想

- ・「グリーン購入」という言葉を知らなかったのが新たに知ることができた。
- ・これまで学びの中でよくテーマにもなったSDGsを達成するための方法の一つとして自分にも身近で貢献しやすいものだと思う。
- ・グリーン購入がどれだけ環境に変化を与えるのか、長期的な実践の効果が実際に示されて理解することができた。アルバイト先はグリーン購入に関する記載は特に無かったため、ある程度の知名度がある企業でもグリーン購入が馴染んでいないことが分かり、もっと社会的に意識される取り組みになってほしいと感じた。

担当者
の感想

自分のつながりのある団体や組織のグリーン購入の取り組みを調べることで、具体的な事例に触れることができ、一般論としての知識だけでなく、社会のトレンドやSDGsの目標達成に向けて求められる事柄を考える機会となったと思います。



事例から学ぶ カーボン・オフセット基礎講座

2022年
10月14日



カーボンフリーコンサルティング株式会社 国内事業部：三浦 麻紀

講義
内容

2050年に向けた世界共通の課題であるカーボン・ニュートラルの実現に向け、企業に課せられた脱炭素経営はもとより、個人においても一人ひとりが脱炭素に配慮し、生活する必要性について説明。実感しやすいCO₂の規模感や国内におけるCO₂排出量の状況について解説し、脱炭素の手法としてのカーボン・オフセットについて事例を参照しつつ、できるだけわかりやすく解説した。

具体的な事例としては、横浜市内の事業者やイベントにおけるカーボン・オフセットについて紹介。身近なところでクレジット活用による脱炭素への取り組みが行われていることを紹介した。

4 脱炭素の手法「カーボン・オフセット」

日本で人が1日に排出するCO₂はどれくらい？

日本におけるエネルギー由来のCO₂排出量は1人当たり年間約1,840kg-CO₂です。1日に換算すると約5kg-CO₂となり、500mlペットボトル5,000本分相当の体積となります。

5kg-CO₂=ペットボトル約5,000本分！

（出典：JCOCA HP）

5 カーボン・オフセット事例【横浜】

横浜開港祭のカーボン・オフセット

企業の電力、LPG、発電機燃料、重機燃料のCO₂排出量を削減するためのクレジット「横浜ブルーカーボンクレジット」でオフセット。

さらに、会場内によるCO₂削減クレジットやオフセット、緑化への貢献と東北支援の2面からカーボンオフセットを行った。

受講生
の感想

- ・横浜開港祭は毎年訪れるが、脱炭素に配慮して開催されていることを知らなかった。
- ・横浜中華街や世界トライアスロン大会など、近所で開催されていても環境に対する取組は知らないものばかりだった。今後はカーボン・オフセット証明書を探しながら、自分が大きく関わることはなくても、少しでもCO₂などの温室効果ガスの削減に貢献しているお店を利用しようと思う。

担当者
の感想

学生にとって、カーボン・オフセットと脱炭素というテーマは少々難題かと思っていたが、多くの学生がカーボン・ニュートラルに向けた取り組みの必要性、また自らの生活から排出するCO₂への認識が深まったという声を聞き、本講演を通じ自分事として捉えるきっかけ作りや、今後彼らが就職先を決定する上での判断基準にしていただければと感じた。

学生の感想にもあったように、自らの買い物は地球環境へ影響し、またその選択は未来への投票であると改めて認識した。認識弊社のメリットとしては、J-クレジット制度への理解、J-クレジットプロバイダーとして、当社の事業や脱炭素について知識を深めてもらえたことが挙げられる。



オカムラの木材利活用による “サステナビリティの推進”

2022年
10月21日

okamura 株式会社オカムラ サステナビリティ推進部：那須、遠藤
カスタムデザイン部：角田

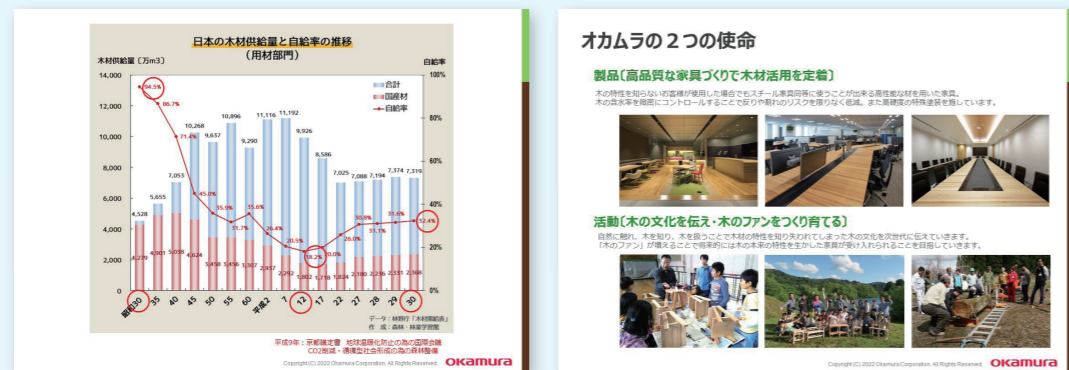
講義
内容

オカムラのサステナビリティの推進の取り組みの中で「木材の利活用による」部分にフォーカスを当てた講義を実施。

- 1.オカムラの経営理念、“オカムラウェイ 人を想い、場を創る。”を説明
すべての人が生き活きと活躍できるサステナブルな社会を実現するために設定したサステナビリティ重点課題4分野に基づき具体的活動を紹介します。



- 2.オカムラの考える木材の利活用。地球温暖化防のための活用と森林保全、経済活性化の関係等について、日本の現状と必要性を説明。オカムラの活動、製品の事例を紹介。



受講生の感想

- ・サステナビリティという言葉は最近のものだが、オカムラはかなり前から取り組んでいることに感銘を受けた。
- ・「自然を大切に」と教えられてきたので、木を使うことが地球環境を守ることにになるとはじめて知り、固定概念が覆った。
- ・企業が木という資源をどのように活用し、どのような効果があるのか知ることができた。就職先についても自然に対する考え方を考慮したいと思った。
- ・温暖化対策には森林を活性化させることが必要だと知った。
- ・木の良さを子どもに伝える活動も素晴らしく、オカムラという企業に興味があった

担当者の感想

「資源を大切に」という言葉の意味が「使わない」と捉えられてしまっていることを改めて実感しました。講義では日本の森林、林業の現状を伝えました。環境問題の本質と、解決策をひとりひとりが考えるきっかけを作れたのであれば幸いです。また、オカムラの活動や木への考え方などに興味を持ったとの感想も多く、うれしく思っています。



エシカル消費でSDGsに取り組もう

2022年
11月4日

太陽油脂株式会社 人事総務グループ 副部長：藤澤 雅人
SCM 総括部 購買・CSR グループ：堀江 菜月
SCM 総括部 購買・CSR グループ：矢田 馨

講義
内容

- 1) 太陽油脂のSDGs/環境への取り組みについて知る
- 2) 環境や人体に対する石けんのやさしさや、SDGsとの関係を学ぶことでエシカル消費の普及を計る
- 3) 石けんの原料としても使われているパーム油について、現地の状況やRSPO認証制度について学ぶ
企業紹介と当社のSDGsや環境への取り組みを紹介させて頂いたのち、なぜ石けんが環境や人体に対してやさしいとされるのかについて、石けんの「はたらき」や「性質」、正しい使い方について説明し、実際に実験を行いながら講義を行いました。

パーム油に関する講義では、基本的な説明から様々な課題（森林減少や生物多様性消失、泥炭地開発、労働問題など）を説明し、RSPO認証制度の紹介や環境にやさしい製品を選んで使う「エシカル消費」の大切さを伝えました。



受講生の感想

- ・大体的な大企業や一般企業は利益を重視していると思うが、太陽油脂株式会社は第一に環境などを重視し、未来ある人達に講義等を行い、利益ばかりを追求するものでなく…。
- ・手を洗う時石けんはきれいにするに過ぎないと思っていたが、ウイルスの膜を破壊する力があることが知れた。
- ・SDGsの重点テーマにパーム油というものがあるということは初耳であり、これは環境などにも良いということを知った。
- ・とてもサステナブルな世界に貢献するような活動をなさったり、私たちが貢献できる機会を作られている… 私たちはこの機会に活動に参加していくべきであるとも感じました。
- ・2030年までに使用電力を100%再生可能エネルギーにするというSDGsの取組に感銘を受けた。
- ・パーム油を一年間で5kgも使っていることに驚いた。今度自分の身近にどこにあるのか意識してみようと思った。

担当者の感想

今年から関東学院大学の皆さんへの講義となり、また、初めての対面での実施で緊張した面持ちで臨みましたが、学生の皆さんの感想を読ませて頂き、私どもがお伝えしたかったことを受け止めていただいていることがわかり、感謝しております。サステナブルな製品づくりや取り組みを行う企業だと認識して頂けたと思います。ただ、パーム油の問題やRSPOについてほとんど知られていない現状に、エシカル消費を行動提起していく必要性を改めて感じました。



オーラルピースプロジェクト ～ビジネスと福祉の両立を目指す事例～

2022年
11月4日

ORALPEACE株式会社ライフ：植田 貴子

講義
内容



受講生
の感想

- ・身の回りの一つ一つの物も見直して、再開発して、社会のためになる商品を生み出せるのではないかと感じた。
- ・障害者の低賃金問題と高齢者の誤嚥性肺炎の問題を一挙に解決できるこの商品はすごいなと思った。
- ・ものづくりは自分の欲しいもの、理想を実現するだけでなく、障害者や高齢者など、自分とは立場や境遇が違う人の身になって、ものづくりをすることが真に必要なことであると気付かされた。
- ・口内ケアという形で、障害を持つ人を助けるというのは自然に思いつくことでは無いと思った。なんとなくの知識ではなく、触れ合うことで気づける部分だと感じた。私も色々なことを調べるだけでなく、自分自身で体験していきたいと思った。
- ・祖母は、歳をとるにつれて口周りが緩くなり始め、歯磨き粉を綺麗に洗い流せないなどの事例が多々ありました。今回紹介されていたものを使えば、飲み込んでしまわないようにと言った心配が無くなるため、安心して祖母に使うような商品だなと感じました。

担当者
の感想

- ・飲み込んで安心安全な口腔ケアですので、授業後に実際に使ってくださいとボランティアを募り、スプレー製品をお試しいただきました。「スッキリする」「おいしい」など感想をいただくことができました。
- ・障害のある方々の賃金アップを大きな軸とした会社です。企業として利益を出すこと、障害者の賃金アップや仕事を創り出す目指す福祉の面。その両立は決して簡単ではなく、試行錯誤であり、難しい点なども含めて知っていただく機会となったのではないかと思います。ありがとうございました！



環境問題から考える自分と会社の存在意義

2022年
11月18日

大川印刷 株式会社大川印刷 代表取締役：大川 哲郎、横山 千夏

講義
内容

2部構成で行われ、1部では学生時代の自分がどのような機会に課題感を持って事業を進めてきたか振り返り、環境問題に対して自分、そして自社がどのように関わろうと思ったのか、どのように関わって来たのかを事例を交えて紹介した。

最初に紙とデジタルそれぞれの有効性について触れ、デジタル化が叫ばれる中でも、若い人たちがアナログでエモーショナルな紙製品などに関心を高く持っているというアンケートの紹介をし、リサイクルの仕組みが確立されている紙の有効性を再認識した。そして再エネ100「風と太陽で刷る印刷」、社会全体で急激に進みつつある脱炭素経営についての情報、更に社会課題解決型インターンシップの紹介を行った。

2部ではSDGsカードゲームを使用し、企業や団体でどのような形でSDGsの理解を進め、そして活動に活かしているのかを体験してもらい、理解を深めてもらった。

受講生
の感想

- ・ペーパーレス化が進む中で私は紙で手元に残ることの大事さに気が付いた。その最たる例が卒業アルバムであると思う。何度も手軽に見返せるし、落書き、メッセージ交換などがある。
- ・印刷に囚われずに若者のしたいことを一緒にして「こと」を作ると言っていてそれを大切にされる印刷の仕事に繋がると言っていて利益に執着することなくとても素敵だと思いました。また、若者の失敗は許されるから色々な大きな挑戦もさせると言っていて、やる気のある優秀な人がのびのびと働きやすい会社だと思いました。すごくためになりました。ありがとうございました！
- ・今回の一つの課題を渡されたカードの内容を吟味して解決策を考えるというゲームをやってみて、発想力や創造力が鍛えられたと感じた。すぐには思いつかなかったけど、グループ内の人の意見を聞いて思いついたので、相手の意見をしっかり聞くことは大事だと思った。

担当者
の感想

- ・大学での講演など貴重な機会をいただき、自分の成長を実感することができました。(横山)
- ・授業になかなか集中できない学生さんも、こちらのアプローチの仕方次第で参画意識をもって行動を少しでも変えてくれることが分かり、会社でも同様のことが言えると改めて感じました。(大川)



市民の生活を支える下水道が担う 持続可能な社会への貢献

2022年
11月25日



横浜市環境創造局政策課：安藤 成晃、佐丸 雄一郎、近藤 太一

講義
内容

<目的>

横浜市環境創造局の下水道事業の担うインフラ整備と維持管理や浸水対策、脱炭素・循環型社会への取り組みなどを紹介し、日常生活と水の関係性を考え、持続可能な社会の実現に向けた考察を行い、新たな知見を広げてもらう。

<講義>

- ・横浜市の組織や都市の魅力を紹介
- ・下水道事業における様々な取組
(グリーンインフラ、浸水対策、脱炭素社会、循環型社会、イノベーション創出など)



受講生
の感想

- ・家庭などから出る下水をどのような過程で綺麗にしているかなど、下水に関する対策を詳しく知ることで、下水道に関する事業のイメージが変わりました。
- ・下水道の管理をしてくださっている方や環境のためにもトイレにトイレットペーパー以外流さないとか飲み水を無駄にしないなど自分がやれることをしていこうと思った。
- ・下水道に関する事業では大規模な下水道幹線の建設だったりハザードマップで危険情報を伝達したりと大いに力を入れているんだとわかった。下水道で働く人々が私達の生活を清潔に保てるようにしていると改めて思った。
- ・横浜は都会というイメージが強くてあまり農業をやっているというイメージがないので、農業にも力を入れているということを知ってとてもびっくりした。
- ・下水道資源と農業は接点が無いように思ったけど、下水道側は資源や実験の場を提供し、農業側は栽培やスマート農業の技術提供でここでも循環型社会の実現に向けた事業を行っていて、これからの横浜市の未来型都市としての発展がとても楽しみになった。

担当者
の感想

横浜市下水道事業を中心とした講義により、社会のインフラが皆さんの日常生活をどのように支えているかを考えてもらう機会となったことがとても有益でした。また、下水道事業の担う浸水対策や脱炭素・循環型社会への貢献などについて、幅広い役割や取組みを伝えられたことも、とても貴重な機会でした。今回の講義が皆さんにとって、持続可能な社会の実現に向けて考える一助となれば幸いです。



横浜・神奈川から考える エコやサステナビリティに関して

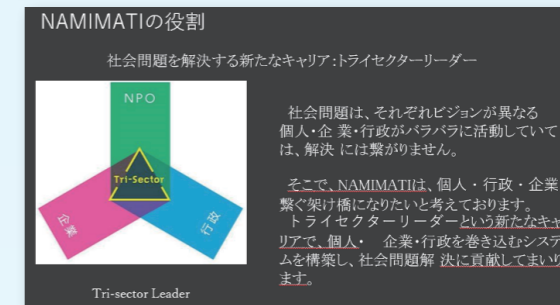
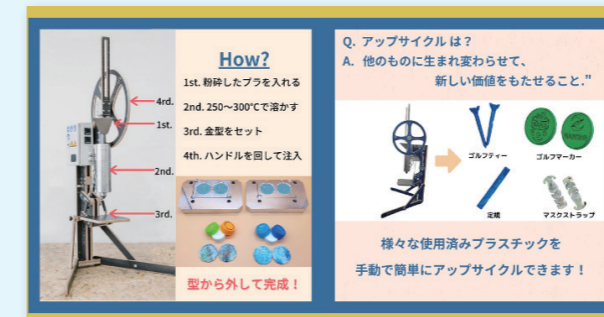
2022年
12月2日



株式会社湘南貿易：土井 菜穂子

講義
内容

弊社が行っているプラスチックリサイクル関連装置の現状から、リサイクルを普及させるための小型インジェクション装置を活用したイベントの事例を紹介した。
また、リサイクルだけでなく、みなとみらいで運用している自転車タクシーやZ世代に向けてSDGsやサステナビリティに関して発信・活動しているNAMIMATIの取り組みを紹介し、横浜・神奈川から発信しているエコやサステナビリティに関してプレゼンテーションを行った。



受講生
の感想

授業終了後特に質問等なく、残念ながら把握できませんでした。

担当者
の感想

なかなか学生に興味を持ってもらいながらプレゼンテーションを進めることができなかった。学生の方々に我々の取り組みや企業をしてもらうことは重要なことであるので、実施方法を参加型にする等検討が必要とおもう。



ユニフォームで実現可能なSDGsの取り組み

2022年
12月29日



株式会社ダイイチ デマンドセンター：柳下 元紀
店舗推進課：唐子 友里恵

講義
内容

ユニフォームを通じてダイイチが解決できる課題

①働きがいも経済成長も！

普段、街中でも目にする企業ユニフォームですが、身近なユニフォームを知ってもらう為に事例を交えてご紹介しました。働く環境を的確に把握し、働く環境に適したユニフォームを提供する事が私たちの役割です。企業の象徴として、企業イメージと合ったデザイン、動きに合わせた仕様、安全に仕事ができる点など、留意すべき点は多数あります。私たちはユニフォームを通じて、企業で働く人たちがユニフォームを着る事で安心して働ける環境を作る事を担っています。

②GO職場スターズ ～職場で働く人をスター選手に！～

ユニフォームを着用する全ての皆様をスター選手にしたい！というコンセプトに職場ではたらく皆様にスポットライトを当て、最高に輝く劇的な瞬間を収めた写真を撮影する企画についてご紹介しました。撮影した写真は、着用企業のホームページや採用に活用いただいています。

③環境に配慮したユニフォーム

バイオマス由来のポリエステル、使用済みユニフォームのリサイクルなど、環境に配慮したユニフォームについてご紹介しました。



受講生
の感想

- ・自身のバイト先でも同じユニフォームで仕事をする事によって責任感や、連帯感が生まれることを実感している。お客さんと店員を間違えることなく判別をつけることができる。制服の役割性を理解することができた。
- ・使用済みのユニフォームをリサイクルして新たなユニフォームに変えるといったリサイクルプロジェクトを行っている。このような活動は限りある資源を未来につなぐための大切な取り組みとなっていると思う。
- ・ユニフォームは着用者に配慮したデザイン設計になっており、毎日安心して快適にユニフォームを着用できるよう、現在の着用状況を徹底したヒヤリングをして、デザイン設計をしていること。ユニフォームは毎日着る為、快適なユニフォームがある事はとても良いなと思う。
- ・環境に配慮された商品を扱っており、ポリエステルといえば石油由来の印象しかなかったから、自然由来のポリエステルもあることを初めて知りました。
- ・GO職場スターズの写真がかっこよくて、ユニフォームの魅力がギュッと詰まっているなと感じました。

担当者
の感想

ユニフォームの魅力を知っていただけたことはもちろんの事、それ以上に社会に出て働くという事を考える良い機会にさせていただけたと感じました。ユニフォームで実現可能なSDGsの取り組みのご紹介については、社会貢献ができる事を多くの学生の皆様からの感想にもあり、関心が高いテーマだと改めて実感しました。



「東洋電機製造のサステナビリティ活動のご紹介」 「鉄道の世界、鉄道のエコ」

2022年
12月16日



東洋電機製造株式会社 経営企画部 サステナビリティ推進室：上野 亜希子
経営企画部 広報・IR・CSR課：丸山 達也

講義
内容

サステナビリティ担当と広報担当の社員2名が講師となり、東洋電機製造のサステナビリティ活動として、当社の環境理念やサステナビリティ方針、事業を通じた社会・産業インフラへの貢献、金沢区にある横浜製作所での省エネやリサイクルの取り組みをご紹介しました。また、「鉄道の世界、鉄道のエコ」と題して、明治以降の日本の近代化に果たした鉄道の役割、当社が電機品を通じて電気鉄道の発展に貢献したこと、電気鉄道が他の交通機関と比べてエコな移動手段であることなどをご紹介しました。



受講生
の感想

- ・近年、脱炭素に向け様々な乗り物が注目され、その中では車が大多数を占めていますが、電車がすべての運用方法に対して最もエコであったことは意外でした。
- ・電車はSDGsにも貢献し、環境のことを考えて、人々がよりよく使えるために様々な工夫がされているとわかりました。
- ・今回の講義を受けて鉄道について多くのことを学ぶことができました。「電車は人にやさしく常に進化しています！」というキーワードが印象に残りました。交通弱者でも安全に乗車できる低床式電車、架線がなくても動くバッテリートラム、空飛ぶ(浮上)電車、低振動であるリニアモーターカーなど人にも環境にも適した電車があるということがわかりました。
- ・電車を通して、どのように環境や社会のために貢献しているのかを知ることができました。エネルギーでは、創エネ、活エネ、蓄エネ、省エネといった、多方面からアプローチすることで、エネルギーの循環まで考えたものづくりをしていることを知りました。持続可能な社会にむけて、エネルギーだけではなく、廃棄物、CO2の観点から工夫をしており、全てを無駄なく利用していることがわかりました。また、社会のためにバリアフリーやジェンダー平等など、電車を利用する全ての人のことを思っているものづくりをしていることがわかりました。

担当者
の感想

継続して寄附講座に参加させていただいておりますが、今回は久しぶりに対面での実施となり、学生の皆さんの関心をもって講義を聴いていただいている姿を見ながらご説明することができて、講師としてもとても良い刺激になりました。

環境をテーマに専門的に学んでいる学生が多かったようで、講義の感想も環境への意識の高さが見受けられ、こちらも勉強になりました。

また、当社のサステナビリティへの取り組みや事業内容が講義を通じて理解され、当社への認識が高まり有意義な講義となりました。

“ごみ”は人間の無関心がカタチになったもの

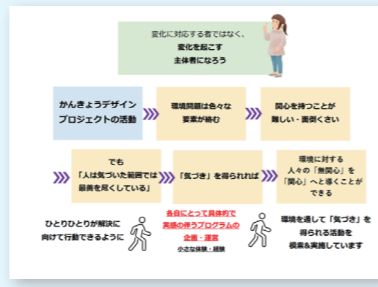
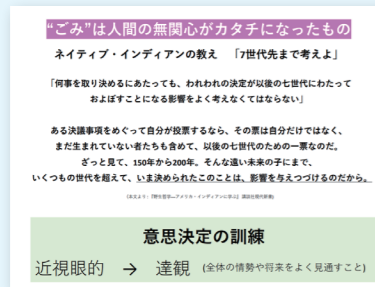
2022年
12月23日



かんきょうデザインプロジェクト(武松事業デザイン工房株式会社): 武松 昭男

講義内容

環境問題に限らず、様々な社会課題の解決には、まず当事者意識を持つことができているか、課題に対して関心を向けられているか。そうしたことをセルフチェックすること、それが解決の品質やスピードに大きく関わることを理解して頂くようつとめました。自社主催の環境啓発交流イベント「かんきょう文化祭」、そしてshort storyとして4つの身近な環境問題を事例に受講生の関心具合や認知度合いを図り、話題の濃淡を調整しながら進めました。社会課題の多くは、以前から改善をしなければならないことがわかっていたにもかかわらず、何も手をつけてこなかった「人間の問題」であることを、廃棄物を軸とした環境の話題から講義を行いました。



受講生の感想

- ・現代の生活をしていく中で、食品の廃棄や原子力発電所の放射線廃棄物など環境に悪影響を及ぼす要因が数多くあることが改めてわかった。
- ・2016年にフランスが制定した食品廃棄禁止法はとてすばらしいと思った。食を特に大事にするフランスだからこそできた法だと考えられる。
- ・地球の環境が悪い事は知っているが興味を持っていない事が問題だと感じた。
- ・今までの講義は「企業でやっている環境活動はこういうもので、その活動ではこの環境問題に向けて取り組んでいます」という内容でだったが、今回の講義は環境問題を解決するための活動の根本や、最も重要なことという内容でとても勉強になった。
- ・ごみの仕事はモノの終わりと始まりに立ち会える、いらないとされたモノをお金に変える。“ごみは人間の無関心がカタチになったもの”というお話を聞いてごみのお仕事に関心を持つことができました。

担当者の感想

「大気汚染」「手つかず食品の廃棄」「放射性廃棄物」「横浜のごみの歴史」の4項目をshort storyとし、当講座に関心を向けてもらおうよう、まず努力をしました。受講生の感想から、等しく4つの項目に対して感想が出されていたので、90分の講義でも、モノヤコトに対して異なる話題提供は、今の学生たちには有効であることを改めて認識できたところが成果です。

ユーコープの社会貢献活動の取り組み 地球温暖化に伴う気候変動危機下の子どもたちへの支援について

2023年
1月6日



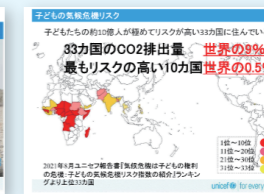
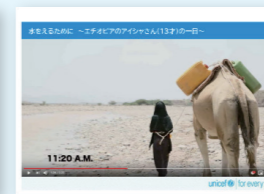
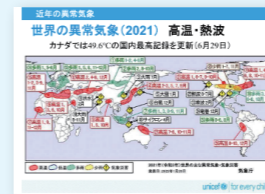
生活協同組合ユーコープ・神奈川県ユニセフ協会: 櫻井 展子、関山 万里子

講義内容

1.生活協同組合ユーコープとユーコープの社会貢献活動の紹介



2.生活協同組合ユーコープの社会貢献活動の一つであるユニセフ活動の紹介と、ユニセフの支援活動の紹介として「気候変動危機下おかれる子どもたちの生活とその支援」について報告し、地球温暖化に伴う環境変化、気候変動が地球全体の課題であること、また、気候変動が著しい地域の子どもたちのくらしが脅かされているという実情を伝え、「環境」について考える機会とした。



受講生の感想

- ・生協法に基づきSDGsに取り組んでいるだけでなく、「暮らしの改善」に貢献するといった目標を持っていて、生活協同組合さんをとて身近な存在に感じました。
- ・社会的課題への取り組みのお話では、目の前の「暮らし」への目標から社会的な大きな目標まで、広い視野で課題を見極めているのが分かり、私たちの暮らしを長い目で良くしようとしていただいているのが伝わり、とてもいい印象でした。活動報告を行うだけでなく、我々に世界中の貧しい子供たちが、なぜそのような生活を強いられているのかを世界環境と共に解説して頂きました。エチオピアで暮らす女の子の一日の生活の映像を拝見し、目でその過酷さを知ることができ、とてもいい経験でした。自身でも、ユニセフの公式サイトなどでもっと世界の子供たちの現状を知ろうと思いました。
- ・今回の講義では、プラスチックの処分についてとユニセフについてのお話がとても印象に残った。現在は、プラスチック製品が海に漂流することで自然を壊してしまうことへの対策として、ビニール袋を有料化したりストローを紙製にしたりして環境に配慮した活動が行われていて、すごくいいと思う。海に漂流したビニール袋をクラゲと勘違いして食べてしまうウミガメがいるという話を聞いたことがあるので、そういうのが減っていくというのは良い事だなと思った。
- ・地球温暖化の影響は豪雨、台風の大型化、豪雪と既に問題が行っており、世界でもパキスタンの大洪水、カナダで国内最高記録の49.6℃を更新する等と問題が起こっています。地球温暖化による問題は、極端な気温、極端な降水、乾燥傾向、破壊的は台風、発達した低気圧、海面上昇、海の酸性化があげられ、様々な影響を及ぼしています。そこで、気候変動の温床となるプラスチックを減らす取り組みを始め、地球温暖化対策に繋げていくことで環境を変えることができたらいいと思います。
- ・気候危機は子供たちの権利危機と子供たちにも影響を与えます。33カ国のCO2排出量は世界の9%、最もリスクの高い10カ国は世界の0.5%と0ではありません。SDGsの目標は2030年とそれまでに世界の状況を良くできるように私たちもできることをするべきだと思います。

担当者の感想

たくさんの方が熱心に話を聞いてくださいました。地球温暖化が世界的な課題になっていることは皆さんご存知だとは思いますが、世界中には温暖化により命をも脅かされている子どもたちがいることを知り、日常生活の中で自らができることを考える機会提供になっていれば幸いです。一方的な講義になってしまったので、双方向のコミュニケーションが取れるような講義内容にしても良かったと感じました。



FSC® 森林認証紙に印刷しています。

